

相談・交流活動部門目次

- 1 相談・交流部門の人員体制
- 2 相談指導業務
 - 1) 相談の場所と時間帯
 - 2) 身分別相談状況
 - 3) 内容別相談状況
 - ① ビザ・在留の相談
 - ② 奨学金・授業料の相談
 - ③ 事件事故に関する相談
 - ④ 生活一般の相談
 - ⑤ サークル交流活動に関する相談
 - ⑥ 入学進学に関する相談
 - ⑦ 研究学習に関する相談
 - ⑧ 就職アルバイトに関する相談
 - ⑨ 日本人学生への相談業務
 - ⑩ 海外からの入学希望者への相談業務
 - ⑪ 地域関係機関・個人への相談業務
 - 4) 留学生の就職支援活動
 - ① 支援の概要
 - ② 支援の流れ
 - ③ 就職実績
 - ④ 今後の課題
- 3 交流活動
 - 1) 学内交流活動
 - ① 国際交流ラウンジ
 - ② ビデオショウ
 - ③ 国際交流キャンプ
 - ④ 国際交流スキー旅行
 - ⑤ 留学生研修旅行
 - ⑥ 全学オリエンテーション
 - ⑦ 留学生と教職員との交歓会
 - ⑧ チューター制度

- ⑨ 留学生センターラウンジの役割
- 2) 地域交流活動
 - ① 小中学校総合学習等支援のための留学生派遣
 - ② 留学生派遣の流れ
 - ③ 派遣における問題点
 - ④ 地域ボランティアグループとの交流
- 4 地域・国際交流ネットワークの構築
 - 1) 福井大学留学生会
 - 2) 福井大学留学生同窓会
 - ① 福井大学留学生同窓会設立の背景
 - ② 福井大学留学生同窓会設立
 - ③ 支部設立の動き
 - ④ 各支部事務局の連絡先
 - 3) ネットワーク誌「こころねっと」の発刊
 - 4) 住所、e-mail アドレス等の情報網構築
- 5 日本人学生の海外留学支援
 - 1) 海外派遣留学生数の現状把握
 - 2) 短期語学留学について
 - 3) その他の海外諸活動
 - 4) 海外留学支援活動の現状
 - ① 学外からの海外留学案内ポスターの掲示及び海外留学案内パンフレットの展示
 - ② 電子メールによる海外留学情報の提供
 - ③ 海外留学説明会の実施
 - ④ 個別相談
 - 5) 留学生センターの役割
 - ① 支援体制の現状
 - ② 支援体制拡充とその役割
- 6 外部への情報発信活動

相談・交流活動部門

1 相談・交流部門の人員体制

福井大学留学生センターには専任教員が5名いて、日本語・日本事情教育部門に4名、相談交流部門に1名配置されている。他方、国際課にも留学生生活担当職員がいるが、国際課には主に事務手続き関係の質問が行き、相談交流担当教員の方には、腰を据えてゆっくり相談したい場合にやってくる。無論、相談交流担当教員だけでなく、センター教員5名全員が留学生の相談に応じるが、学期開始時に実施する全学留学生向けオリエンテーションで相談交流担当教員が相談交流業務について詳しく説明するので、留学生たちは概ね相談・担当教員の研究室に相談に訪れる。また、相談交流担当教員は在学留学生ほぼ全員の e-mail アドレスや電話番号を把握し、頻繁に受発信しているので、気軽に相談できる環境にある。

2 相談指導業務

1) 相談の場所と時間帯

いわゆる相談専用室はなく担当教員の研究室で相談を受ける。研究室には5人用のソファースーツがあり、寛いだ雰囲気を提供できる環境にある。相談時間帯は留学生センターホームページ(<http://ryugaku.isc.fukui-u.ac.jp/>)に下記の通り掲載されているが、研究室 入口ドアには「いつでもどうぞお入りください。不在の場合のメモは上の籠はい ふざい ぼあい うえ かごにいれてください」との掲示があり、籠が用意されている。つまり、下記時間外でも、授業中でない限り相談を受ける。

曜日	午前	午後
月		14:00 ~ 17:00
水	9:00 ~ 12:00	
木	9:00 ~ 12:00	
金	9:00 ~ 12:00	

2) 身分別相談状況

相談担当教員の研究室においては、本人の本学着任（平成12年8月）以降、平成18年3月までの5年8ヶ月間の、留学生対象の相談が1,340件、留学生以外の相談が289件、合計1,629件記録されている。着任日からの全データをエクセル上に見分別、内容別に分類し、記録してあるので、瞬時に統計資料が作成できる状態になっている。ただ、記録に多少漏れもあるので、相談実数はその約1割増しぐらいかと思われる。

平成12年度は年度途中からであり、且つ、担当者及び業務の知名度が低いこともあり相談件数は55件であったが、その後は265件、278件、288件、251件と、毎年250件以上になっていた。ところが、平成17年度はその数が大幅に低下し、前年比19%減の203件となっている。その主な原因は、以前相談担当教員研究室に隣接した教室で行われていた、全学向けの日本語クラスがセンター移転に伴い、そちらで実施されるようになったことにあると認識している。現在、ばらばらになっている、センター関係施設及び教員研究室の集中配置、つまり、留学生関係業務を統合的に運営できる独立した留学生センター建屋の確保が望まれる。

平成12年度～17年度の5年8ヶ月間、及び平成17年度における学生の身分別相談状況は下記、表1及び表2の通りである。また、平成17年10月1日現在の留学生の身分別在学学生数は表3の通りである。尚、本報告においては、e-mailによる相談はその集計数字に入っていない。

表1 (平成12年度～平成17年度の身分別相談状況)

	医学部		教育地域科学部		工学部		小計		総合計	%
	男	女	男	女	男	女	男	女		
院生	0	1	36	70	451	122	487	193	680	51%
学部学生	0	0	5	54	105	51	110	105	215	16%
研究生	1	0	60	58	72	31	133	89	222	17%
科目等履修生	0	0	20	30	85	88	105	118	223	17%
小計	1	1	121	212	713	292	835	505	1340	100%
総合計	2		333		1005		1340			
%	0.15%		25%		75%		100%			

表2 (平成17年度の身分別相談状況)

	医学部		教育地域科学部		工学部		小計		総合計	%
	男	女	男	女	男	女	男	女		
院生	0	1	0	6	72	15	72	22	94	46%
学部学生	0	0	1	7	16	20	17	27	44	22%
研究生	1	0	16	12	9	2	26	14	40	20%
科目等履修生	0	0	3	3	11	8	14	11	25	12%
小計	1	1	20	28	108	45	129	74	203	100%

総合計	2	48	153	203
%	1%	24%	75%	100%

表3 (平成17年10月1日現在の留学生身分別在学学生数)

	医学部		教育地域科学部		工学部		小計		総合計	%
	男	女	男	女	男	女	男	女		
院生	2	2	2	10	63	28	67	40	107	47%
学部学生	0	0	0	3	30	19	30	22	52	23%
研究生	1	3	8	10	14	5	23	18	41	18%
科目等履修生	0	0	5	4	16	5	21	9	30	13%
小計	3	5	15	27	123	57	141	89	230	100%
総合計	8		42		180		230			
%	4%		18%		78%		100%			

さて、平成17年度の身分別相談状況であるが、表2、表3がほぼ重なっているのがわかる。つまり、在学学生数の身分別分布がそのまま相談件数の分布となっている。

留学生在学学生の47%を占める院生が相談件数においても46%を占め、相談件数は順次、学部学生22%、研究生20%、科目等履修生12%と続く。学部別、及び男女別の相談件数分布においても、在学学生数の身分別分布がほぼそのまま相談件数の分布となっている。

ただ、相談件数の場合は、例えば事件事故などで一人が何回も相談に来訪することがあるように、上記の分布状況の重なりは偶然とも思われる。なぜなら、一般的には、日本語学校を経て日本語力を身につけ、日本社会での生活経験も豊富な学部学生は適応力と問題解決力があるので、その数に比べて相談件数は少なくなるし、他方、日本語があまりなくても研究室に研究生として入り、その後大学院へと進む、研究生及び院生は語学力が弱く、且つ、生活力も劣るので、いろいろな問題を抱えることになって、必然相談件数が多くなるのである。更に、研究生や院生の場合は、指導教員や研究室仲間との緊密な人間関係が構築できるが、そのような環境にない科目等履修生は周りに相談する相手が少ない。

尚、平成15年10月に旧福井大学と福井医科大学が統合したが、医学部の留学生数自体が少ないこと、それに両キャンパスが地理的に離れていることから平成16年度までは医学部留学生の相談はなかった。平成17年度は医学研究科の研究生が日本語研修クラス(半期)に参加したことから、相談案件があった。

3) 内容別相談状況

平成12年度～17年度の5年8ヶ月間、及び平成17年度における留学生の内容別相談状況は下記表4及び表5の通りである。さて、平成17年度の内容別相談状況であるが、研究学習への相談が一番多く25%であり、サークル・交流活動23%、そして就職アルバイト及び入学進学がそれぞれ19%と続き、以上4分類で86%を占める。その他は生活一般7%、事件事故5%、奨学金授業料2%とそれぞれ少なく、ビザ・在留の相談は0.49%(1件)である。

例年は、表4に見られるように、内容別相談件数では就職アルバイトの相談件数が圧倒的に1位であるが、平成17年度は19%(39件)とその件数が少ないのが特徴である。それは留学生の卒業後の国内就職実績人数と関係している。つまり、平成15年度16名、平成16年度23名と留学生の国内就職は多かったが、平成17年度はわずか9名に激減している。ただ、その就職人数の減少は、求職活動が難しかったという理由ではなく、むしろ、進学希望者が多く就職希望者が少なかったからである。進学と関係する、研究学習と入学進学の相談研修は合計44%となり、半数に迫る。

表4 (平成12年度～平成17年度の内容別相談状況)

	医学部		教育地域科学部		工学部		小計		総合計	%
			男	女	男	女	男	女		
研究学習	1	0	36	41	138	66	175	107	282	21%
就職アルバイト	0	0	38	70	226	55	264	125	389	29%
奨学金授業料	0	0	1	14	30	5	31	19	50	4%
生活一般	0	0	18	24	58	30	76	54	130	10%
入学進学	0	1	10	25	131	84	141	110	251	19%
サークル・交流活動	0	0	17	34	78	31	95	65	160	12%
ビザ・在留	0	0	0	1	26	3	26	4	30	2%
事件事故	0	0	2	2	25	19	27	21	48	4%
小計	1	1	122	211	712	293	835	505	1340	100%
総合計	2		333		1005		1340			
%	0.15%		25%		75%		100%			

表5 (平成17年度の内容別相談状況)

	医学部		教育地域科学部		工学部		小計		総合計	%
			男	女	男	女	男	女		
研究学習	1	0	8	3	21	17	30	20	50	25%
就職アルバイト	0	0	3	7	21	8	24	15	39	19%
奨学金授業料	0	0	0	0	4	0	4	0	4	2%
生活一般	0	0	2	3	8	2	10	5	15	7%
入学進学	0	1	1	7	16	13	17	21	38	19%
サークル・交流活動	0	0	6	8	27	5	33	13	46	23%
ビザ・在留	0	0	0		1	0	1	0	1	0.49%
事件事故	0	0	0		10	0	10	0	10	5%
小計	1	1	20	28	108	45	129	74	203	100%
総合計	2		48		153		203			
%	1%		24%		75%		100%			

次に、相談内容別に概観したい。比較対照の観点から平成16年度の紀要第1号における年報部分の記述の順に従って述べることにする。

① ビザ・在留の相談

相談件数が1件しかないのは、ビザ取得・更新手続き等に関しては国際課留学生係が中心に処理して、国際課段階で解決されているからだと思われる。平成17年度の1件については、友人来訪のビザ取得に関する相談であった。

② 奨学金・授業料の相談

奨学金・授業料の相談件数が2%（4件）と少ないのは、まず奨学金案件そのものが少ないこと、また、授業料免除は学生課が窓口であるためこちらでは学生課への問い合わせに終わることによると思われる。ただ、平成17年度本学在学留学生230名の内、国費留学生は56名、マレーシア政府派遣留学生が18名、その他各種奨学金を受給している学生は20名前後と思われるので、140名前後は奨学金なしの私費留学生と思われる。従って、授業料が免除になるかどうかは死活問題である。特に、院生の場合は、実験等のためにアルバイトに割ける時間には限度があり、ギリギリの生活をする留学生が多い。尚、授業料免除において、未解決の大きな問題点は、民間の奨学金をもらう学生が、奨学金の総額が年収制限にひっかかり、授業料免除要件から外れることである。つまり、折角の民間奨学金

の善意が授業料免除不可という結果となり、その趣旨が生かされないことである。

③ 事件事故に関する相談

事件事故に関する相談は5%（10件）と少なかったのは、喜ぶべきことである。10件の内訳は、平成16年度に交通事故に遭った学生の退院後の各種手続きと対応、自宅侵入により警察に保護された学生の身柄引き取りと対応、留学生在が放置した自動車の処理、それと、スキー旅行で怪我した学生の保険会社からの保障手続きなどである。いずれも、従来と同様、国際課職員、指導教員、保険会社、警察などと緊密な連携をとりながら対処し、スムーズに解決できた。

④ 生活一般の相談

生活一般に関する相談は7%（15件）で少なかった。主なものは、交換留学生と日本人女性との結婚に伴う相談で、式、婚姻届、留学生会館への居住希望等で相談を受けた。留学生会館については、帰国まで半年しかなかったこともあり、居住を認めなかった。ただ、日本人と結婚した場合にも留学生会館への入居を認めるのかどうかなど、国際化する社会に対応できる規定の整備が必要である。他には、賃貸契約における保証人関係の相談があったが、保証人問題は外国人留学生支援会発足に伴う機関保証制度が整い、大きな前進となった。留学生在が路上で警察から職務質問を受けることによる相談も相変わらず2件あった。従来どおり、職務質問の背景を説明すると共に、そのような場合には直ちに相談担当教員に連絡を取るよう指示した。

⑤ サークル交流活動に関する相談

従来より、学生の地域理解や親日感は、パーティ等に招待されることからではなく、地域の国際化への積極的貢献から生まれるとの認識から、小中学校や県内機関に留学生在を講師として積極的に派遣している。平成16年度は68件派遣したが、平成17年度は45件に減少した。それでも、相談件数は23%（46件）と、研究学習に次いで多かった。相談内容としては、小学校等での発表方法や、準備内容等に関するものが相変わらず多いが、今年には問題発生に対処する相談が目立った。その主なものは、福井市等が運営する語学講座講師を引き受けたいが、指導教員が厳しくて許可がもらえそうにないとか、小学校で英語講師を前期担当したが後期は指導教員から止めるように言われたなど、研究室／指導教員が交流活動と研究活動のバランスに苦慮している面が見られた。基本的には研究室／指導教員の意向に沿う形で対処したが、土日の活動については、柔軟に対処した。小学校での英語補助講師を週1回、1年間の契約で引き受けた学生が無断欠席するなど、真摯に取り組まないとの苦情があり、これに関して留学生在を呼び出して、指導することもあった。

また、留学生の中には、合気道部、バスケットボール部、茶道部などに入部する学生も徐々に増えているが、どんな部に入部したらいいかなどの相談もあった。

⑥ 入学進学に関する相談

入学進学に関する相談は過去5年間平均と同比率で、平成17年度も19%を占め、38件あった。このカテゴリーの相談には、学内進学、学外進学、更には第三国への進学相談があり、特に最近では第三国への進学相談が増えている。学内進学の場合、適当な指導教員を探してほしい、本学大学院受験に失敗したので新しい指導教員を紹介してほしい、研究生として1年過ごし確実に進学できると思っていたのに不合格になった、などと相談に来る。学内進学に関して、マレーシア政府派遣留学生3名が継続して政府奨学金が取れたら修士に進みたいが、取れなかったら進学できないということで、推薦状を書いてほしいという相談が例年あるが、平成17年度は3名が相談に来た。学外進学、及び第三国への進学の場合も奨学金等情報提供と推薦状作成依頼がほとんどである。

⑦ 研究学習に関する相談

研究学習に関する相談は例年多いが、平成17年度は相談全体の25%（50件）を占め、内容別相談件数で最大であった。また、研究学習に関する相談は大学院生からの相談がほとんどで、研究室内の人間関係、研究テーマそのもの、学位論文執筆の壁、などがある。国際総合コース学生等、英語で直接指導を受ける留学生が急増する中で、日本人学生の英語力が追いつかず研究室内の疎外感を味わう学生が多い。また、直接大学院に入学する学生の場合、来日後研究テーマ、研究室変更の相談に来る学生がいる。その背景には研究室内の雰囲気の影響していることもある。このような場合には指導教員、学部長等と直接協議して対応している。修士論文で悩んで相談に来る学生は皆無に近いが、博士論文の場合にはかなりの学生がノイローゼ気味になる。査読の結果が届かない、規定の論文数になっているのに指導教員が予備審査を開いてくれない、今のテーマでは論文が書けない、などである。このような場合には黙って悩みを聞いてあげると同時に、必要に応じて指導教員と協議している。

平成17年度は国際総合コースの学生が研究テーマを変更したいということで、相談に来た。関係者と協議の上、結局研究室を変更した。その結果、留学生は意欲的に研究を進めている。

また平成17年度はマレーシア政府派遣留学生で学部3年生の学生が1科目単位が取れなくて、4年生になれない。しかも、その科目の受講者の大半が単位をもらえず、追試もない。何とかしてほしいと年度末に相談に駆け込んできた。そこで、同じマレーシア政府派遣留学生の先輩で優秀な学生2名に依頼して、この学生に15回の集中補講を実施してもらい、その結果を基に、学生本人が担当教員に懇願して、追試を実施してもらい無事4年生となった。マレーシア政府派遣の場合、奨学金は原則4年間と決まっているので、1年留年すると、5年目の4年生1年間は私費留学生となる。本人は4年への進級が決まると同時に、晴れ晴れとした顔で挨拶に来た。

⑧ 就職アルバイトに関する相談

就職したい、企業を紹介してほしい、履歴書の書き方がわからない、自己PR文をチェックしてほしい、就業ビザが取れない、給与について会社に問い合わせでもいいか、将来日本から中国に転勤転籍したら給料はどうなるのか、内定通知を複数もらったけどどこがいいか、等々、就職に関する相談が例年相談件数のトップである。しかし、前述した通り、平成17年度は就職希望者数が少なく、結果的に、相談件数は全体の19%（39件）であった。就職相談体制については後述するが、例年通り、福井商工会議所、ジェトロ福井、福井労働局、入管との連携、特に産業界とのネットワークを通して支援した。

⑨ 日本人学生への相談業務

日本人学生の海外留学を担当する専任教員が配置されたため、相談交流担当教員は主として留学生を対象とした、相談業務を行っているが、平成17年度は22件の日本人学生の相談来訪があった。内半数の13件は海外留学に関するものであった。そして、その中の1人、工学研究科博士前期課程女子学生は平成19年2月から1年間インドの学術交流協定締結大学に留学することになった。受入大学側との連絡、各種書類のやり取りを支援した。その他、留学に関して基本的な心構えや資料収集についてもアドバイスした。

⑩ 海外からの入学希望者への相談業務

本学修士、博士課程への入学希望者から、メールによる問い合わせが相談交流担当者に直接入ることが多い。主に工学部・工学研究科に関するもので、指導教員を紹介してほしいというものである。その場合には、当該学科の留学生委員会委員に情報を転送し、学科内全教員に受入意思を確認するように依頼している。国際総合特別コース博士課程の場合、毎年このような形で2、3名を受け入れてもらっている。

⑪ 地域関係機関・個人への相談業務

県内関係機関からの国際交流活動の企画、求人活動計画等についても随時相談を受けていて、平成17年度は39件あった。内、国際交流活動関係が29件、求人関係が9件である。

4) 留学生の就職支援活動

① 支援の概要

本学は理念の中核に「地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成」を掲げている。そして、留学生センターは大学の国際化だけでなく、地域の社会、経済の国際化を推進する核となることが期待されている。そこで、福井商工会議所、ジェトロ福井、福井国際交流会館、県庁等と連携しながら、留学生の国内就職、特に県内就職を推進している。相談担当教員の着任以降、平成13年度8名（内県内4名）から平成16年度23名（同9名）まで、計53名（県内23名）が就職したが、平成17年度は9名の就職に留ま

ったことは前述した通りである。この就職支援相談業務において一番大切なのは、産業界、福井労働局、入管との連携、特に産業界とのネットワーク構築である。平成 13 年度及び 14 年度に福井商工会議所と協力して「県内企業と留学生の懇談会」を実施し、支援の弾みをつけたが、その後実施していない。そこで、平成 17 年度は第 3 回「県内企業と留学生の懇談会」を開催すべく、福井県産業労働部国際・マーケット戦略課と連携して、準備を進めた。その結果、福井商工会議所、ジェトロ福井、福井県留学生交流推進協議会を含む 4 団体の共催で平成 18 年度早期に開催する運びとなった。

留学生センターにおける就職支援の流れは下記の通りである。

② 支援の流れ

2月中旬

留学生向け就職説明会実施

内容

: 過去の就職・内定状況について

: これからの就職活動と相談について

(就職の心構え、就職ナビ登録、履歴書作成法、自己PR書の書き方、内定後の注意事項等)

: 各種資料配布

「就職活動の手引き 2005 年」福井大学作成

「日本で働こうとする外国人のみなさんへ」

(英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語版)

厚生労働省作成

「ふくい企業ガイドブック 2005 年」福井労働局作成

: 先輩の就職活動体験談

: 就職希望者リスト登録

5月

福井大学就職希望留学生一覧を県内企業 100 余社に送付

6月

「留学生と県内企業の交流会」実施

(福井県、福井商工会議所、JETRO 福井、福井県留学生交流推進協議会共催)

以降随時

求人票、会社説明会等を e-mail で配信。及び個別に就職相談を受ける。

内定決定

中島研究室に内定決定を連絡後、在留資格変更手続き等の相談を受ける。

③ 就職実績

就職実績は下記の通りである。教育学部の学生は通訳、翻訳、中国出先との連絡調整、工学部の学生は開発、研究等が主な業務内容である。

表6 平成17年度留学生国内就職実績（就職先内定順）

会社	本学出身所属	国籍	会社所在地
A	工学研究科情報メディア	カンボジア	東京都
B	工学研究科機械工学	中国	福井県大野市
C	工学研究科知能システム	中国	東京都
D	工学研究科ファイバー（知能）	中国	滋賀県高島市
E	工学研究科建築	中国	福井県武生市
E	教育研究科教科教育専修	中国	福井県武生市
F	工学部電気電子工学科	バングラデシュ	東京都
G	工学研究科建築	中国	福井県福井市
H	工学研究科ファイバーアミニティ工学専攻 攻インテリジェントファイバー	中国	福井県福井市

④ 今後の課題

就職支援の一番のポイントは求人会社の確保である。平成13年度及び14年度に福井商工会議所と協力して実施した「県内企業と留学生の懇談会」を再度実施するとともに、県内企業団体との連携を深める必要がある。また、就職後熱意をもって仕事を継続できるように、働くことの意義、動機付け教育を推進したいと思っている。事務的手続きの指導だけでなく、動機付けに関する講義が後日感謝されることが多い。また、現在構築しつつある同窓会支部網を通して、今後は母国企業への就職支援へと活動を広めていきたい。

平成17年の就職希望者の数字の減少は逆に言えば、修士、博士課程への進学、特に博士課程への進学者の増加を意味する。つまり、就職支援担当者としては、進学と就職、どちらの方向に指導していくのか、慎重な対応が求められる。

3 交流活動

1) 学内交流活動

留学生相互及び日本人学生との交流を図るために、福井大学留学生会が組織されており、留学生会主催の行事として、国際交流ラウンジ、ビデオショウ、国際交流キャンプ、スポーツ大会などが実施されている。

平成 17 年度の学内交流活動実績は下記の通りである。

表 7 平成 17 年度学内交流活動実績一覧

参加者人数

4月10日	子どもたちに学校を スマトラ沖津波被災者支援募金活動、屋台出店	20
4月14日	福井大学留学生会第一回事務局会議	10
4月20日	国際交流ラウンジ 話題：花見	30
4月21日	留学生会主催 新入生歓迎会	35
4月27日	ビデオショウ「Nobody knows(誰も知らない)」	30
4月25日	こころねっと発送作業	9
5月6日	こころねっと発送作業	5
5月6日	ビデオショウ「インフォーマルアフエア」	25
5月7日	こころねっと発送作業	2
5月18日	国際交流ラウンジ 話題：母国の自慢料理	25
5月25日	ビデオショウ「The Song Sisters(宗家の三姉妹)」	20
6月1日	国際交流ラウンジ 話題：自分の国の学校	23
6月3日	福井大学留学生会第2回事務局会議	12
6月8日	ビデオショウ「Swing Girls」	25
6月15日	国際交流ラウンジ 話題：梅雨	27
6月17日	留学生会主催 サッカー大会（附属中グラウンド）	25
6月22日	ビデオショウ「戦場のピアニスト」	26
6月29日	国際交流ラウンジ 話題：各国の一言フレーズ	15
7月1日	福井大学留学生会第3回事務局会議	7

福井大学留学生センター紀要第2号

7月3日	キャンプ会場下見	4
7月6日	国際交流ラウンジ 話題：礼儀作法	16
7月13日	ビデオショウ「いま会いに行きます」	15
7月20日	国際交流ラウンジ 話題：夏休み	13
7月22日	留学生会 バスケットボール大会（日新小体育館）	32
8月8-9日	国際交流キャンプ	33
8月30日	留学生会主催 さようならパーティ	36
9月2日	福井大学留学生同窓会韓国支部設立大会（韓国釜山市）	7
9月9日	留学生同窓会西安支部設立大会（中国西安市）	34
10月19日	国際交流ラウンジ	30
10月21日	留学生会主催 新入生歓迎会	54
10月25日	福井大学留学生会第4回事務局会議	12
10月26日	ビデオショウ「オペラ座の怪人」	30
11月2日	国際交流ラウンジ 話題：文化の違い	25
11月6日	おしゃべりコンサート（山本純子）	12
11月16日	国際交流ラウンジ「世界のマナー」「世界の食生活」福井大学生協 SOSEN部発表会	30
11月25日	福井大学留学生会ホームページ委員会	2
11月29日	福井大学留学生会第5回事務局会議	11
12月7日	国際交流ラウンジ	20
12月14日	ビデオショウ「SHALL WE DANCE」	15
12月15日	福井大学留学生会主催 YEAR END PARTY	49
12月18日	国際交流ラウンジ 話題：雪	25
12月21日	国際交流ラウンジ	15
12月22日	福井大学留学生会第6回事務局会議	9
12月23日	六呂師スキー	5
12月24日	福井大学留学生会主催 バスケットボール大会（大学体育館）	26
1月11日	ビデオショウ「風と共に去りぬ」前編	15
1月17日	ビデオショウ「風と共に去りぬ」後編	10

1月18日	国際交流ラウンジ 話題：お正月	15
1月25日	ビデオショウ 「STAR WARS」	10
2月8日	スキー説明会	25
2月10日	スキー貸出と買出し	30
2月12-13日	福井大学留学生会主催 国際交流スキー旅行（1泊2日、六呂師）	33
2月16日	福井大学留学生会主催 SAYONARAパーティ	32
3月4日	九頭竜スキー	4

① 国際交流ラウンジ

下記の案内のような形で、各学期期間中毎月第1、第3、第5水曜日に実施される。平成17年度は15回行われた。原則自由会話であるが、毎回話題を設定し、その話題に関するアンケートをその場で行い、会話のスムーズな展開を図る。この国際交流ラウンジの場合は、福井大学生協の学生組織である SOSEN 部が事務局として、毎回のアンケートの作成・実施、会場の準備、後片付け等で積極的に協力してくれる。最初の30分は英語で、次の30分は日本語で会話を展開するので、語学力向上を目指して参加する学生が多い。毎回、終了時に全員で記念写真を撮って終えることにしている。そして10枚程度の各場面写真を含め、掲示板に掲示して、希望者に配布している。過去5年間継続実施しているが、当初ポケットマネーで用意していたお茶菓子代は3年目から福井大学生協が原物提供してくれている。尚、この案内は毎回数日前に留学生全員及び日本人学生に英和文併記で e-mail 配信される。

表8 国際交流ラウンジの案内文

留学生及び日本人学生の皆さん	
下記の通りお話し会「国際交流ラウンジ (International Friendship Lounge)」を行います。	
お誘い合わせの上、ご参加ください。	
日時	4月20日(水曜日) 18:00-19:00 (毎月第一、第三及び第五水曜日 18:00-19:00 開催)
場所	留学生センター ラウンジ
参加者	留学生及び日本人学生(毎回各15名、計30名ぐらい参加)
内容	前半30分英語、後半30分は日本語によるグループ自由会話 (飲み物、スナック付)
話題	雪
参加費	無料
主催	福井大学生協 SOSEN 部 福井大学留学生会

② ビデオショウ

前述の「国際交流ラウンジ」が第1、第3、第5水曜日に実施されるのに対して「ビデオショウ」は第2、第4水曜日に下記のような案内を通して福井大学留学生会主催で実施される。E-mailによる希望調査により、外国映画、日本映画を原則交互に放映することになっている。平成17年度は11回実施された。映画鑑賞を通して、またその前後にコーヒー、お茶菓子を味わいながら留学生相互、及び日本人学生との交流をしている。

表9 ビデオショウ案内文

Dear Friends, (Both Overseas and Japanese Students)
I am pleased to inform you that we are going to have a Video Show as hereunder. You are cordially invited to the program.
Title Nobody knows (誰も知らない) A Japanese movie
Date April 27 (Wednesday) 18:00-20:30
Place Lounge, International Student Center
Fee Free (with Coffee and Snacks)
Marcio Inoue Secretary, University of Fukui International Student Association (UFISA) ufas.jp@yahoo.co.jp

③ 国際交流キャンプ

日本人学生、留学生の相互交流を図るため、一泊二日のキャンプを福井大学留学生会の主催で毎年実施している。バス借上代を留学生センター予算で負担してもらっているため、学生参加費は一人3000円である。

平成17年度は8月8日、9日に33名参加で実施した。午前中は越前海岸で水泳を楽しみ、午後越廼村ガラガラ山キャンプ場へ移動し、バーベキューの後、各国の歌、踊り、ゲームなどを楽しんだ。海岸でのスイカ割り、水球など、留学生にとって思い出深い行事であるため、今後も継続したい。

④ 国際交流スキー旅行

以前は留学生センター行事として、一泊二日のスキー旅行を実施していたが、過去数年間実施していなかった。ただ、キャンプ同様留学生に人気の行事なので、福井大学留学生会が主催し、平成17年度は2月12日、13日の両日33名参加して復活実施した。バス借上代を留学生センター予算で負担してもらっているため、学生参加費は一人3000円である。初日午前中に六呂師スキー場に到着し、福井大学六呂師山荘にチェックイン、昼食の後、

午後からスキーを楽しむ。夜は近隣の温泉で体を休め、夕食後は深夜まで交流パーティをやり、歌い、踊り、談笑した。次の日も福井大学六呂師山荘で朝食の後、午前中スキーをして、午後帰路に着き、夕方5時に大学に帰還した。六呂師山荘の定員が35名なので、多数参加できないのが残念であるが、参加募集開始日の深夜から申込みメールが殺到し、午前中には定員が埋まる盛況ぶりである。尚、福井大学には学生課の管理のもとに、貸出用スキー用具があるので、経費が嵩まないという利点がある。

⑤ 留学生研修旅行

留学生の見聞を深めると同時に、留学生相互及び教職員との交流を図るため、夏期及び春期に研修旅行を実施している。平成17年度は下記の通り実施した。

表10 留学生研修旅行実績

平成17年度		
夏	平成17年9月7日～8日	
	飛騨高山・下呂温泉と「愛・地球博」	
	留学生：41名	教員：1名 職員：2名
春	平成18年2月21日～2月22日	
	京都・奈良世界遺産	
	留学生：50名	教員：1名 職員：2名

⑥ 全学オリエンテーション

学期初めに、新入及び在学留学生全員を対象に大教室でオリエンテーションを実施している。教職員紹介、新入生全員の自己紹介、日本語クラスや生活上の注意事項等を説明するが、オリエンテーション終了後、ジュースとお茶菓子による簡単な茶話会を開催している。これは、新旧留学生の交流に役立っている。

⑦ 留学生と教職員との交歓会

毎年3月初旬、帰国留学生の送別会を兼ねて、アカデミーホールや大学生協食堂等を利用して、留学生及び教職員200名ほど参加する交歓会を実施している。学長の挨拶、留学生代表の挨拶、各国の歌や踊りなど出し物を鑑賞しながら、パーティ料理を用意して交流を行う。留学生は無料であるが、教職員からは会費を徴収する。そして、最後に全員で記念写真を撮り終える。

⑧ チューター制度

留学生の学習・研究指導、日本語指導、生活情報提供、諸手続きのための官公庁等への

案内など、本学ではチューター制度が完備している。その実績は下記の表 11 の通りで、その活動状況は活動計画書、執務表の形で報告されている、留学生の研究、学習、生活及び日本人学生との交流において多大な役割を果たしている。

表 11 教育地域科学部及び工学部におけるチューター活動実績

	チューターと留学生のペア数	実施時間数	留学生一人あたりの平均実施時間数	在籍留学生数
平成17年度前期	48	1743.5	36	210
平成17年度後期	70	2181.0	31	230

⑨ 留学生センターラウンジの役割

留学生センターには相談担当教員研究室に隣接して、留学生向けのラウンジがある。コンピュータ6台、プリンター1台が設置され、留学生が学習、研究、母国との連絡等に利用している。ラウンジには衛星放送受信可能なテレビ、ビデオの他、円形テーブル2脚、テーブル用椅子10脚があり、留学生が集い、語り合う場所として利用されている。また、国際交流ラウンジ、ビデオショウ、各種パーティの会場としても使われるため、テーブル用椅子の他に、折り畳み式椅子40脚も用意してある。

更に、ラウンジには留学生貸し出し用図書が数百冊あり、相談交流担当教員が随時貸し出している。貸し出し件数は年間150件に上る。就職用参考書や問題集、TOEICやTOEFL等英語試験問題集、日本語能力試験問題集、その他各種日本語教科書とビデオなどである。

2) 地域交流活動

① 小中学校総合学習等支援のための留学生派遣

留学生が真に日本の文化社会を知るためには、地域交流団体が実施するパーティ等への参加による表層的な交流ではなく、留学生がより主体的に地域社会を支援する中で、それが可能になるという認識を持っている。さらに、人は、他人から与えられる喜びよりも、他人に何かをしてあげたという貢献による満足がより深いという認識もある。その満足の中から、地域社会へのより深い愛着が生まれ、知日派が育つと考えている。以上のような考えから、平成17年度は下記のとおり各種活動に留学生を派遣した。尚、10月22日の国民文化祭においてはパレードに8名参加した他、ご来訪なされた皇太子殿下と福井大学留学生5名との懇談会があった。留学生5名は着物を着付けてもらい、習字、お茶等を楽しんだ後、お茶をいただきながら、皇太子殿下と歓談した。

表 12 平成 17 年度地域交流活動実績

参加者人数

4月から1年間	丸岡町立高椋小の英語指導助手(毎週 2 時間)	35(延べ)
4月から1年間	丸岡町立平章小の英語指導助手(毎週 2 時間)	35(延べ)
4月から1年間	丸岡町立磯部小の英語指導助手(毎週 2 時間)	35(延べ)
4月から1年間	丸岡町立明章小の英語指導助手(毎週 3 時間)	35(延べ)
4月10日	オルガンコンサート(福井県文化振興事業団)	11
4月18日	サバ州から経済団体商談マレー語通訳	1
5月～2月末	中藤小学校国際理解教育(英語活動)のゲストティーチャー1-6年生	35
5月3日	オルガンコンサート(福井県文化振興事業団)	27
5月23日	福井青年館 バングラデシュ事情講義	1
5月28日	(社)福井市シルバー人材センター「小さな国際交流」	1
6月10日～13日	福井市シルバーバレーボール連盟(中国語、杭州市チーム来訪)	4
7月2日	湊小学校 Minato International Day	7
7月3日	ホクビ着物教室	10
7月18日～22日	JICA・福井青年館バングラデシュ青年教諭招聘(15名)事業通訳	1
8月	国際ソフトボール大会韓国語通訳	1
9月12日	商工会議所中国市場参入個別相談会通訳	4
9月27日	第19回日韓産業技術交流促進ミッション同行(福井県企業立地・マーケット戦略課)	1
9月30日	西藤島小学校2年生	4
10月1日、2日	公文English Immersion Camp Leaders	6
10月5日	勝山市荒土小学校(ハローワールド)3～6年生76人	4
10月7日	鯖江中河小学校 ハローワールド	1
10月9日	丸岡古城祭り	13
10月8日	日本女性会議2005ふくい パネリスト	1
10月13日	交流ふくい「座談会」	1
10月15日	UNESCO祭り「お国自慢」講師	3
10月16日	ICクラブ出前寄席	10
10月20日	日新小学校5年生49人	8

10月22日	国民文化祭 オープニングパレード	8
10月22日	皇太子殿下との懇親会(福井大学学生との茶話会)	5
10月22日	NPO You クラブ 武生菊人形祭	11
10月24日	UNESCO中国教職員招へいプログラム通訳	5
11月18日	西藤島小学校 2年生	4
11月24日	日新小学校 5年生49人	8
11月25日	円山小学校	4
11月25日	敦賀南小学校「ワールドデー」	3
11月27日	国際交流協会嶺南センター国際交流パーティ/料理	3
11月30日	円山小学校	2
12月9日	FIAハローワールド北新庄小学校	1
12月17日	ライオンズクラブ 総会、家族パーティ	15
1月9日	商工会議所珠算大会、英語読み上げ算講師	1
1月27日	福井市明道中学校国際交流集会	7
1月30日	明新小学校	4
2月9日	清水西小学校 4年生ハローワールド	1
2月25日	さつき児童館	1
3月12日	福井県国際交流協会通訳ボランティアガイド研修会、モニター参加者 (英語話者20名、韓国語話者11名)	31
3月15日	福井商工会議所商談会通訳中国語14名 英語 3名	17

② 留学生派遣の流れ

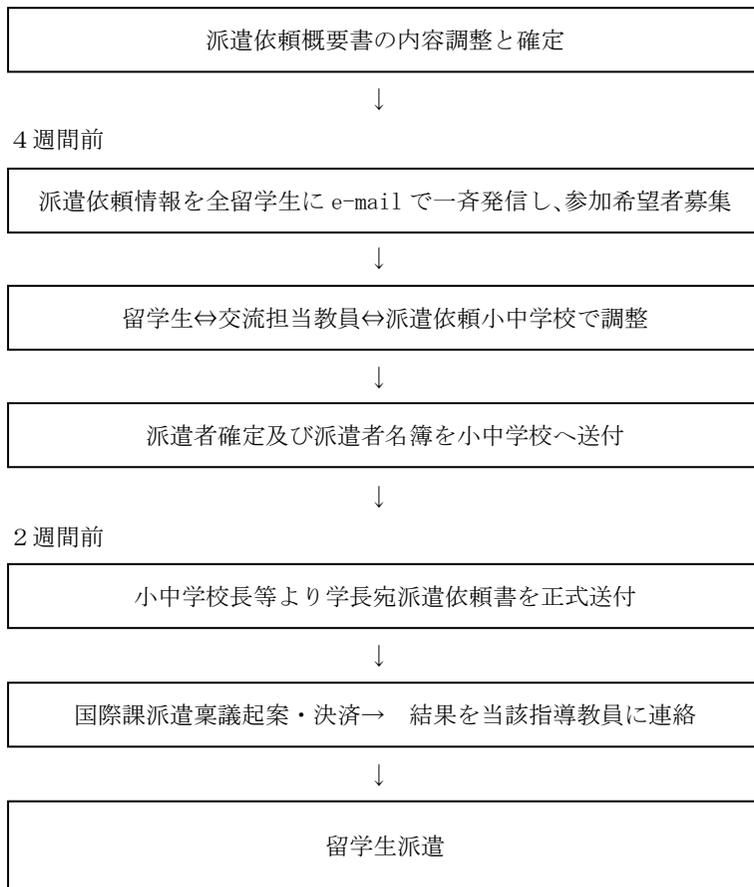
派遣 1 ヶ月以上前

各小中学校等からの派遣要請受付

派遣 1 ヶ月前

派遣依頼概要書(A 4 1 頁)を交流担当教員に e-mail 送付

↓



③ 派遣における問題点

留学生の本分は学習・研究等であるため、交流活動によってそれが阻害されてはならない。交流活動に熱中し過ぎて研究論文作成が疎かになっているという苦情を時折指導教員よりいただく。その意味で、募集においてはあくまで学生個々に直接依頼せず、一斉メールで募集し、派遣稟議決済後その写しを指導教員に回付することになっている。又、留学生は遠方の派遣先に自転車で向かうことが多いことから、事故等に備えて派遣先に一日傷害保険をかけるよう依頼徹底している。更に、派遣においては少額の謝金が支払われることがあるので、e-mail 配信募集時に謝金についての情報も掲載するようにしている。本学の大半を占める私費留学生の貴重な収入源にもなっている。

ただ、実験などに追われる留学生は交流活動に参加する余裕がなく、小学校等からの要請に沿う留学生を確保するのはなかなか難しい。従って、余り積極的な派遣活動を展開することは出来ず、そのバランスが大切である。

④ 地域ボランティアグループとの交流

福井県内には日本語教育を中心としたボランティアグループが13団体あるが、その交流を図るために、福井国際交流協会主催で年3回ボランティアグループ連絡会議を開催している。そして、相談交流担当教員が平成15年まではその連絡会のまとめ役を担当していたが、平成16年からは日本語教育部門の桑原陽子助教授がその役を務めている。

4 地域・国際交流ネットワークの構築

相談業務、交流活動業務等日々の活動を展開するためだけでなく、留学生センターが大学、地域社会、そして日本国全体の国際化を推進したり、国際社会に通用する人材育成を図ったりするためにも、総合的なネットワーク構築が欠かせない。そこで、留学生、日本人学生、教職員等の学内ネットワーク、地域社会とのネットワーク、更には本学で学び帰国した友人達を中心とした国際社会とのネットワーク構築を推進している。

1) 福井大学留学生会

平成15年11月に福井大学留学生同窓会が発足した際、同窓会事務局は在学留学生を中心として編成された。そして、その同窓会事務局の提案により、福井大学留学生会が平成16年4月に発足した。その目的は、留学生相互の交流と相互扶助、日本人学生および地域社会との交流である。その学内活動としては、生協 SOSEN 部などと協力しながら、「国際交流ラウンジ」、「ビデオショウ」、歓送迎会、国際交流キャンプ、国際交流スキー旅行、各種スポーツ大会などを実施している。また、地域社会との交流活動としては、県内国際交流団体が主催する行事に福井大学留学生会として積極的に参加し交流している。また、地震・津波など災害救援のための募金活動なども行っている。(詳細は表7参照) 福井大学留学生会では行事毎の委員会が毎学期新たに編成され、委員会を中心に行事を企画運営している。平成17年10月の現在の事務局編成は下記の通り。

表 13 福井大学留学生会事務局編成 (平成17年10月現在)

顧問	1名
会長	1名
事務局長	1名
事務局員	17名
行事委員会	
	サッカー委員会 (3名)、バスケットボール委員会 (5名)、バレーボール委員会 (2名)、さよならパーティ委員会 (2名)、忘年会委員会 (2名)、

スキー旅行委員会(4名)、ホームページ「こころねっと」委員会(6名)、
ネットワーク誌「こころねっと」委員会(事務局全員)

2) 福井大学留学生同窓会

① 福井大学留学生同窓会設立の背景

昭和45年に福井大学第1号留学生Lim Kim Teck氏が工学部繊維染料学科に入学して以来、約900名の留学生が福井大学で学び、約700名が帰国している。卒業後、日本国内に就職して在住している方も多し。平成13年のネットワーク誌「こころねっと」創刊に当たり、帰国留学生全員の住所ラベルを作成し、冊子を送付した。そして、その際「福井大学留学生同窓会登録用紙」を同封したところ、多数の返信があった。そこが設立の出発点になっている。

② 福井大学留学生同窓会設立

文部科学省より特別配分予算を受け、平成15年11月30日に「第1回福井大学留学生同窓会大会」を開催した。招聘した帰国留学生13名、及び在学留学生計91名が参加し、同窓会設立宣言を採択した後、劉丁会長以下事務局を選任し、「福井大学留学生同窓会」が正式に発足した。

表14 設立宣言文

福井大学同窓会設立宣言文

本日2003年11月30日、第1回福井大学留学生同窓会大会に参加した、福井大学卒業留学生及び在学留学生有志は、国際交流の推進、卒業留学生及び在学留学生の相互支援、地域社会との交流、世界平和への貢献を目指し、ここに福井大学留学生同窓会の設立を高々に宣言する。

Declaration of Setting up of the University of Fukui Alumni Society

We, present and former overseas students of University of Fukui, at the 1st Convention of University of Fukui Alumni Society, today on November 30, 2003, declare proudly that we have established University of Fukui Alumni Society, with such purposes as promotion of international exchange, mutual support among present and former overseas students, development of exchange programs between overseas students and local communities, and contribution to the world peace.

署名

signatures

③ 支部設立の動き

平成16年12月マレーシアのクアラルンプールで「福井大学留学同窓会マレーシア支部設立大会」が開催され、支部設立宣言の採択と事務局選出が行なわれた。その後、同年にはタイ支部、インドネシア支部も設立された。平成17年度には韓国支部、西安支部、上海支部の設立大会が本学教職員同席の上、各国で開催され、正式に発足した。現在6支部体制となったが、今後も毎年3支部設立を目安にネットワーク構築をはかる予定である。

表15 (例：上海支部設立宣言文)

December 18, 2005
Declaration of Establishment of Shanghai Branch of University of Fukui Alumni Society
We, former overseas students of University of Fukui, at the 1st meeting of Shanghai Branch of University of Fukui Alumni Society, today on December 18th, declare proudly that we have established Shanghai Branch of University of Fukui Alumni Society, with same spirit and purposes as described in the Declaration of Setting up of University of Fukui Alumni Society on November 30, 2003 at 1 st Convention of University of Fukui Alumni Society in Fukui Japan.
Signed by
President:
Vice President
Secretary:
Members
Witnessed by:

④ 各支部事務局の連絡先

(Malaysian Branch)

President	Shaw Shuh Jiunn (Mr) sjshaw@tm.net.my sdcs_01@streamyx.com
Secretary	Norasmah Matnor (Ms) norasmah.mnor@yahoo.com

(Thai Branch)

President	Surakiat Wongwasin (Mr)
-----------	-------------------------

相談・交流活動部門

	surakiat.won@tmbbank.com
Secretary	Thamma Thammasak (Mr) tma559@yahoo.com
(Indonesian Branch)	
President	Senno Susanto (Mr) oplic@indosat.net.id
Secretary	Nasrullah Idris Arief (Mr) nasrul76@hotmail.com
(Korean Branch)	
President	Kim Soonam symbak@hotmail.com
Secretary	Jung Hoyun anchovy96@nate.com
(Xi'an Branch)	
President	Gao Jian Bin gjb515@hotmail.com
Secretary	Ma Xuan maxuan@xaut.edu.cn
(Shanghai Branch)	
President	Shen Wanzhang williamshen11@yahoo.com.cn
Secretary	Yu Ping yuping@huayinggroup.com

3) ネットワーク誌「こころねっと」の発刊

平成 13 年度に留学生センターの「ニュースレター」発刊を行なうことが決まったが、本学では当初から在学留学生による編集委員会を組織し、留学生による手作りの「ニュースレター」を目指し、その後、編集の過程で、「ニュースレター」から「ネットワーク誌」へと編集方針を変えて行った。平成 17 年度は第 6 号「こころねっと 2006 年春号」として 2000 部印刷し、学内学生教職員、県内全小中高校、交流関係団体・個人だけでなく、帰国及び在日留學生全員にも郵送配布した。その発送作業も在学留学生が行なった。

4) 住所、e-mail アドレス等の情報網構築

現在、帰国留學生の住所データを日々更新構築すると同時に、在学・帰国留學生約 600 名の e-mail 網により、在学・帰国留學生と日々コミュニケーションを行っている。帰国留學生の住所・e-mail 網は、ネットワーク誌「こころねっと」送付と同窓会への登録、及び支部大

会開催等を通して構築している。他方、在学留学生の e-mail 網は相談・交流担当者が各学期 5 コマ受け持つ授業を在学留学生の約 30%に当たる 80 名前後が常時受講しているので、学期初めに e-mail アドレスを登録してもらっている。つまり、留学生関係の授業を担当していることがデータベース構築に大いに役立っているし、在学学生ほぼ全員の名前と顔が見える関係構築ができています。

その他、県内関係機関・個人を含め、e-mail アドレス 1000 件、住所 1400 件を管理し、それは諸活動を展開するインフラとして貴重な資源となっている。

5 日本人学生の海外留学支援

2. 3) ⑨「日本人学生への相談業務」の項目においても、海外留学に関する相談を受けていることに触れたが、ここでは、日本人学生の海外留学支援に関する現状を総括する。

1) 海外派遣留学生数の現状把握

平成 17 年 10 月現在、本学には留学生が 230 名在籍しているが、その在籍者数はここ数年着実に増加してきた。他方、日本人学生の海外留学は表 16 に見られるように、毎年数名に過ぎない。

本学の理念である、「地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成」、特に国際社会に貢献し得る人材の育成のためには、日本人学生の海外留学の推進が急務である。

表 16 海外派遣留学生数（半年以上の派遣数）

年度	国名	派遣大学	派遣数	区分
9	中国	杭州大学	1	短期留学推進制度（派遣）
	中国	西安外国語学院	1	短期留学推進制度（派遣）
	イギリス	ブリストル大学	1	短期留学推進制度（派遣）
	ドイツ	ハンブルク大学	1	私費（教育地域科学部）
	ドイツ	ハンブルク大学	1	私費（教育地域科学部）
10	アメリカ合衆国	オレゴン大学	1	短期留学推進制度（派遣）
	中国	杭州大学	1	短期留学推進制度（派遣）
	イギリス	バーミンガム大学	1	旧福井医科大学
	イギリス	ロンドン大学精神医学研究所	1	旧福井医科大学
	アメリカ合衆国	Harvard Medical School	1	旧福井医科大学

11	中国	西安外国語学院	1	短期留学推進制度（派遣）
	中国	浙江大学	1	短期留学推進制度（派遣）
	イギリス	バーミンガム大学	1	旧福井医科大学
	イギリス	ロンドン大学精神医学研究所	1	旧福井医科大学
	アメリカ合衆国	コロンビア大学医学部	1	旧福井医科大学
12	中国	西安外国語学院	1	短期留学推進制度（派遣）
	イギリス	ロンドン大学精神医学研究所	1	旧福井医科大学
	アメリカ合衆国	コロンビア大学医学部	1	旧福井医科大学
13	イギリス	ウルバー・ハンプトン大学	1	短期留学推進制度（派遣）
	中国	浙江大学	1	短期留学推進制度（派遣）
	中国	西安外国語学院	1	短期留学推進制度（派遣）
	中国	西安外国語学院	1	私費（教育地域科学部）
	アメリカ合衆国	モントクレア州立大学	1	私費（教育地域科学部）
	ロシア	モスクワ大学	1	私費（理工工学科）
	アメリカ合衆国	コロンビア大学医学部	1	旧福井医科大学
14	中国	西安外国語学院	1	短期留学推進制度（派遣）
	中国	浙江大学	1	浙江省派遣研修生（県費）
	オーストラリア	モナッシュ大学	2	旧福井医科大学
15	インドネシア	インドネシア大学	1	短期留学推進制度（派遣）
	カナダ	オタワ大学	2	旧福井医科大学（留学奨励費）
	カナダ	オタワ大学	1	旧福井医科大学（文部科学省 在外研究員旅費）
16	アメリカ合衆国	クレムソン大学	2	私費（教育地域科学部）
	カナダ	オタワ大学	1	私費（医学系研究科）
17	アメリカ合衆国	クレムソン大学	1	私費（教育地域科学部）

2) 短期語学留学について

短期語学留学は、本学各学部が主導するプロジェクトとして、毎年数件実施されているが、平成 17 年度は下記の通り 2 件行われた。

①

留学先機関名	ハンブルグ大学（ドイツ）
派遣学生	4名（工学部3名、教育地域科学部1名）
期間	平成17年8月1日～平成17年8月31日（1ヶ月間）
目的	夏期集中講座によるドイツ語運用能力の育成と学術交流協定校であるハンブルグ大学との学生間の交流の推進
備考	このプログラムは福井県立大学と共同で実施され、福井県立大学からは2名が参加した。旅費の一部を、財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金から助成していただいた。

②

留学先機関名	オカナガン大学（カナダ）
派遣学生	教育地域科学部14名
期間	平成18年2月15日～3月31日（約6週間）
目的	英語の集中訓練により英語運用力を養成する。
備考	旅費の一部を、財団法人日下部・グリフィス学術・文化交流基金から助成していただいた。

3) その他の海外諸活動

半年以上の留学、及び短期語学留学の他に、本学学生の国際性涵養に資する種々の海外活動がある。例えば、工学部機械工学科では、平成13年より釜慶大学機械工学部（韓国・釜山）と毎年学術交流セミナー（教員10名、院生10名隔年相互派遣）を実施している。そして、平成17年より上海理工大学（中国）大学が加わり、3大学が順番で開催することとなった。また、院生の場合、国際シンポジウムや国際会議で研究発表する機会も多い。更に、研究室内の海外研究プロジェクトのフィールドワークに数ヶ月単位で参加し、国際交流を経験する学生も多い。

4) 海外留学支援活動の現状

① 学外からの海外留学案内ポスターの掲示及び海外留学案内パンフレットの展示

国内外の各種団体から海外留学案内ポスターやパンフレットが送付されてくるので、随時、留学生センターロビーの掲示板に貼ったり、書架に展示したりしている。また、部数に余裕があるときは、学生が自由に持ち帰れるようにしている。

② 電子メールによる海外留学情報の提供

教育地域科学部異文化交流講座の学生を中心として、メールアドレスを把握している学生には随時メールで情報を発信している。

ただ、現状では把握アドレス数が少なく、拡充の方策を練っているところである。

③ 海外留学説明会の実施

海外留学を希望する学生への説明会を毎年実施しているが、参加者が少なく、個別具体的な海外留学に結びついていないのが現状である。

平成 17 年度は下記の通り、海外留学説明会を実施した。

日時	平成 17 年 7 月 22 日（金）14：00～15：30
場所	本学教育地域科学部 1 号館 14 講義室
担当	海外留学支援担当教員、及び留学生課職員（2 名）
対象	本学学生で海外留学又は海外経験に興味を持つ学生
参加学生数	11 名

説明項目

- ・日本人学生の海外留学状況について
- ・留学計画の前に
- ・留学概要
- ・日本人学生の海外留学のための奨学金制度
- ・英語圏の国々に海外留学する際の留意点
- ・短期留学制度とはどのようなものか
- ・学生の国費等による海外派遣制度
- ・平成 17 年度長期留学生派遣制度募集要項
- ・外国政府等による奨学金留学生には、どのようなものがあるか
- ・福井大学の学術交流協定締結状況
- ・海外の大学で単位を取得した場合の単位互換の取り扱い
- ・海外留学斡旋業者を選ぶ際に、留意すべき点
- ・その他

④ 個別相談

相談専用室はないが、担当教員の研究室で相談を受ける。研究室には机を挟んで 4 人座れるスペースがある。相談時間帯はオフィス・アワーである、毎週月曜日の 16：30～18：00 までとなっているが、授業時間や会議等の所用が入っていない限り、随時受け付けている。平成 17 年度は担当教員の健康上の事情により、4 月から 9 月までしか相談を行えなかったため、実際の相談件数も数件にとどまった。

5) 留学生センターの役割

① 支援体制の現状

日本人学生の海外留学を支援する専任教職員は現在配置されていないが、日本語・日本事情教育部門に配置されている教員 1 名が担当教員として兼務し、その業務を行っている。ただ、平成 17 年度は当該担当教員が健康上の事情により後期に休職したため、後期は相談

交流担当教員が担当した。

② 支援体制拡充とその役割

日本人学生の海外留学に本格的に取り組むには、兼任でなく、専任の担当教職員の配置が肝要である。そして、その教員の役割として望まれることは、

- ・ 留学、短期語学留学、その他の海外諸活動など、日本人学生の海外留学等に関する情報を一元管理し、活動推進策を企画実施していくこと。
- ・ 留学情報を随時周知・配信できる体制を構築すること。
- ・ 日本人学生だけでなく、教職員を含む本学全体の海外留学に対する意識改革を図ること。
- ・ 動機付けを行うための「海外留学のための語学講座」の開講、学術協定締結海外大学での短期語学講座開催や引率旅行などを企画実施すること。

などであろう。

6 外部への情報発信活動

留学生センターの情報発信媒体としては、「留学生センターホームページ <http://ryugaku.isc.fukui-u.ac.jp/>」がその中心的な役割を果たしている。ホームページ「こころねっと <http://anc.anc-d.fukui-u.ac.jp/kokoronet/>」は平成19年度より、「留学生センターホームページ」に合流させることになった。その他の発信媒体としては、福井大学留学生センター紀要、ネットワーク誌「こころねっと」、「センターニュース」などがある。

(中島 清)